

研究課題 (テーマ)		Low-Vision 糖尿病患者への食事内容把握の実際と支援機器開発の基礎研究—実態調査に焦点をあてて—	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	看護学部	教授	片田 裕子
分担者	工学部	教授	高木 昇
	工学部	准教授	本吉 達郎
	看護学部	准教授	比嘉 肖江
	看護学部	講師	若林理恵子
	看護学部	助教	福村 寛子
	看護学部	助教	濱野 初恵
	JCHO 高岡ふしき病院	看護部長	田井 雅代
公立南砺中央病院	看護部長	谷村 一美	
研究結果の概要			
<p>同意を得られた Low-Vision 糖尿病外来通院患者にフォーカスグインインタビューおよび QOL 尺度無記名自記式質問紙調査を行った。問診時の読み書きの不自由さ、食事内容にフォーカスを当て、現状の把握と支援機器に必要なソフトウェア情報の収集を中心に内容を質的に分析した。インタビュー内容は、逐語録からコード、カテゴリー化を行った。QOL 尺度質問紙調査は SPSS 解析ソフトにより分析した。年代では、70 歳代が 8 名と多く、糖尿病歴 10 年以上が 12 名であった。平均インタビュー時間は、23.3 分、473 コードが抽出された。</p> <p>新しい機器操作ができるか不安があり、機器のみではなく人の関りも必要である、経過が長い場合問診での食事内容把握支援よりはデータ管理の機器を求める、簡便なものならば苦ではないなどのデータが抽出された。また QOL では、年齢と糖尿病歴が高いほど見え方の支障がある結果となった。</p>			
今後の展開			
<p>結果の洗練化を行い、対象施設研究責任者に報告する予定である。また今回得られた結果を基に支援機器のソフトウェア情報に組み込む工夫を行い、より質の高い機器開発と看護を提供できるように看護学部と工学部で連携を図りながら継続的に考察していく予定である。</p>			